

特集

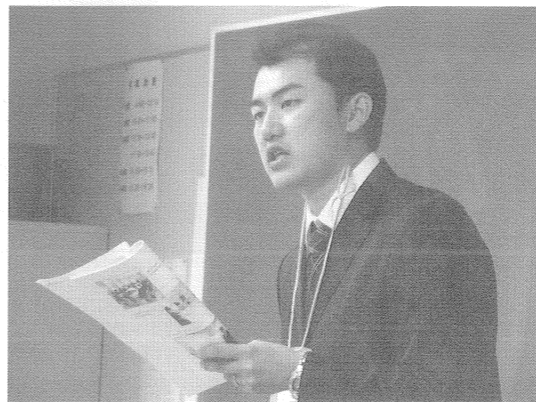
県内社協のこれからの地域福祉推進のあり方を探る

去る平成20年9月6日(土)、本会と社協活動実践研究委員会は、社協のあるべき姿と実践手法を協議するため、第4回社協フォーラムを開催しました。

委員会」という)です。

実践研究委員会の目指すところ

実践研究委員会の目的は「あり方での検討を踏まえて、あるべき姿に到達するために必要な具体的実践手法を研究していくこと」としました。その具体的なイメージは  
①各市町村社協での取組みが可能なヒントや手順書を示すこと



▲熱く語る実践研究委員会委員

「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」の設置を受けて

実践研究委員が研究を進めていく一方で、見過ごすことができない議論が厚生労働省の社会・援護局において進められました。これからの地域福祉はどうあるべきなのか、どのように基盤整備を進めていく必要があるのか、このことが「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」において検討され、平成20年3月に報告されました。

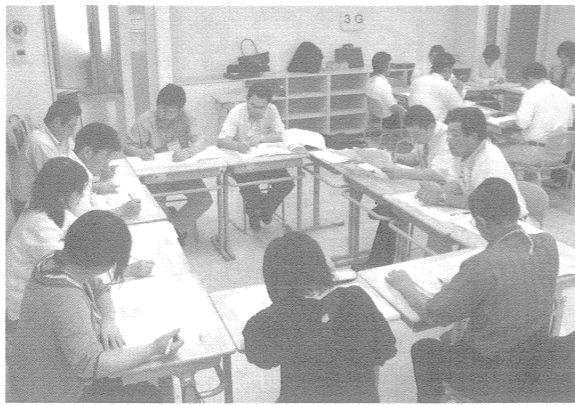
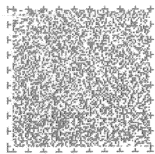
具体的な研究方法

実践研究委員会は、ほぼ毎月1回のペースで委員会を開催し議論を深めま

ここでは、200名を超える社協職員等の参加の下、全国社会福祉協議会からも参加をいただき、併せて地域福祉を推進するための社協の役割と今後の期待について、議論を交わしました。

②成功している事例を分析し、その要素を確認すること  
③その事例を各市町村社協が取組めるように一般化すること  
とし、より正しい認識に基づく研究と実践を進めていきたいという思いから、助言者として学識経験者と社会福祉事業の活動実践者にも委員として協力をいただくことといたしました。

この研究会は社協のことも議論しており、その役割と期待について述べられております。しかし、社協の取組みは「住民に民間性が認識されていない」「あるべき福祉の姿から見れば、結構バラバラです」「コミュニティワークの専門性を備える人材がいらない」など、社協活動は全国で同じように、期待どおり活動実践されているわけではないということが指摘されたところです。実践研究委員会はこの指摘に真摯に向かい合うべきであると認識しました。



▲様々な視点から探ります

した。今回は公募等により得られた委員の協議により、課題としての優先性、委員の得意分野、グループワークとしての効率性を考慮し  
①社会福祉協議会の基礎・基盤整備(構成員、会員、広報、役員体制、人材育成)  
②住民ニーズに着目した新しい視点での事業の再構築  
③効果的な地域福祉活動計画の策定方法  
の3つのテーマを選定した上で、担当するグループに分かれ、具体的な実践手法の研究を進めました。また、その過程で県内の社協活動の先進事例である本吉町社協と美里町社協を視察研修させていただきました。優良な事例の収集にも努めました。

中間報告としての第4回社協フォーラムを開催

今回の発表で明らかにしたこと

実践研究委員会の目的を果たすためには、研究の成果を各社協に発表していくことが必要であること、また広く参加者からも意見を伺い、議論を深めたいと考えたことから、平成20年9月に中間発表という形にて、「第4回社協フォーラム」を開催いたしました。結果、参加者からも賛同を得られ、各社協での実践への足掛かりとなった実感が得られています。

今後の展望

実践研究委員会の当初の議論においては、あり方の報告書の全てのカテゴリーについて研究していきたいという意見が大半を占めていました。ただし、研究を進めていく中で、あり方の報告書は議論を尽くし終えた形で報告されたものでないということが気づいた部分があります。このため、継続して社協のあり方を模索すると共に、残りのテーマを含め実践研究を進めていきたいと考えております。

県社協としても、ここでの提案をもとに市町村社協が計画・実行・評価・改善のサイクルを意識し、取り組みできるように支援していきたいと考えております。

社協活動実践研究委員会(テーマ別)委員名簿

Table with 3 columns: あり方検討委員会報告書 カテゴリーテーマ, 市町村社協役員, 社会福祉協議会の基礎・基盤整備のために. It lists names and roles for various committees across different municipalities.

宮城県社会福祉協議会 地域福祉課作成